

販売高136億円 過去3位 小麦の収量最高 J Aさらべつ

2022年5月27日（金）

【更別】J Aさらべつ（若園則明組合長、正組合員301人）の総会が20日、同J Aで開かれた。2021年度の農畜産物販売高は、小麦の収量が史上最高だったことなどから、過去3番目の136億8,800万円（前年度比14.4%増）だった。

新型コロナウイルスの感染対策のため、書面議決の227人を中心に243人が出席した。

農産物の販売高は100億8,500万円。小麦は収穫期の天候に恵まれたこともあり、製品化率を指す品質、収量ともに過去最高で、20億5,400万円。豆類は全道的な干ばつの影響で減収し、18億3,600万円。パレイショは31億

600万円、ビートが26億5,000万円だった。畜産物の販売高は36億300万円。

また任期途中で監事を退任した若園金作氏（71）に代わり、高松浩氏（62）を選任した。任期は次期改選期の24年5月まで。

J A大樹町も過去最高 販売高156億円、生乳生産伸び

2022年5月28日（土）

【大樹】J A大樹町（坂井正喜組合長、正組合員285人）の通常総会が27日、同J A事務所で開かれ、2021年度の決算と22年度の事業計画を承認した。21年度の取扱販売高は前年度比3.2%増の156億308万円で、過去最高を更新。生乳生産量も過去最高の12万969トン（3.6%増）を記録した。

取扱販売高の内訳は、肉用牛を含む畜産が1.9%増の139億4,153万円。うち生乳は0.9%増の106億7,922万円だった。農産物は16.1%増の16億6,155万円。

昨年度は、主力の酪農では良質な粗飼料を確保し、生乳生産が堅調に推移。畑作は小麦が過去最高の収量を記録した。

当期剰余金は1億7,736万円を計上、前期繰り越し分を含む当期末処分剰余金（2億1,041万円）の処分案を承認

した。今年度は販売高152億7,136万円、生乳生産12万260トンを目指す。

坂井組合長は「新型コロナ禍での消費減退、ウクライナ情勢に伴う資材高騰で生産環境は厳しい。コスト削減や知恵を出し合い、乗り切りたい」とあいさつした。

総会には書面を含む組合員271人が参加、来賓として酒森正人町長が出席した。冒頭、昨年度の各種共励会受賞者を表彰した。

取扱高過去最高163億円 前川組合長再任 J A幕別町

2022年5月28日（土）

【幕別】J A幕別町（前川厚司組合長、正組合員411人）の通常総会が27日、幕別町民会館で開かれた。2021年度の農畜産物取扱高は163億9,200万円（前年度比11.9%増）で、過去最高を記録した。総会後、同J Aで理事会を開き、任期満了に伴う役員改選で前川組合長（63）を再任した。

総会には61人の会場参加を含む計358人が出席した。取扱高はこれまで最多だった17年度の156億円を上回り過去最高を更新した。内訳は農産物が113億5,600万円、畜産が50億3,600万円だった。小麦は開花時期の受粉が順調に進み、過去最高の反収（10アール当たりの収量）となった。てん菜も平均糖分が16.3%と平年より低い数値だったが、平均反収が7.8トンと過去最高だった。

2期目となる前川組合長は「多品目栽培がJ A幕別町の特徴で、今後も継続したい。J Aが目的を示し、組合員との信頼関係を築いていきたい」と語った。

この他の役員は次の通り。（敬称略）

▽専務理事＝田村信夫（再）

▽常務理事＝大串邦彦（新）

▽理事＝助川繁、石塚登久一、漆原学、佐藤勝則（以上再）、

山田一博、平野道大、佐久間晴彦、

香西浩志（以上新）

▽代表監事＝植田義隆（再）

▽常勤監事＝古川耕一（再）

▽監事＝長谷川政志（再）